

## 様式 2

### 全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：人間形成と思想

部会長名：宗像恵

作成者名：宗像恵

#### 概要（2000字）

実施体制：平成 22（2010）年度の本教育部会は、大学教育推進機構 3 名、人文学研究科 9 名、国際文化学研究科 4 名、人間発達環境学研究科 9 名、保健学研究科 6 名、海事科学研究科 1 名、の計 32 名から構成され、教育部会長 1 名（国際文化学研究科）、幹事 2 名（人文学研究科、人間発達環境学研究科）が世話役になり、運営されている。

開講科目：「哲学」、「行為と規範」、「論理学」、「科学技術と倫理」、「心理学」、「心と行動」、「教育学」、「教育と人間形成」

実施状況：「哲学」は人文学研究科と国際文化学研究科の教員により、「行為と規範」は国際文化学研究科の教員により、「科学技術と倫理」は人文学研究科の教員と非常勤講師により、「心理学」「心と行動」は大学教育推進機構、国際文化学研究科、人間発達環境学研究科、海事科学研究科、保健学研究科の教員により、「教育学」は人間発達環境学研究科の教員により、「教育と人間形成」は大学教育推進機構の教員により、「論理学」は非常勤講師により行われている。

教育の現状とその評価：教育内容については、人間が文化の中で自分なりの考え方を獲得しながら人間として形成されるプロセスに関わる問題を、「人間形成と思想」という大枠の下に多角的に取り上げた講義を行うことにより、「教養原論」の教育課程編成上の位置づけと教育目的に沿った講義を提供していると評価できる。加えて今年度からは、新規科目「科学技術と倫理」を開講したことにより、現代科学技術社会における倫理教育の必要性によりいっそう応えることができるようになった。

教育方法については、大人数クラスの解消策として教養原論登録抽選を行なうことで、1 クラス最大 200 名以下のクラス規模が、だいたい実現されている。このことは評価されるべき積極面であるが、反面、抽選から漏れたために本当に学びたい科目を聴講することができない学生が生じていることは、教育上好ましくない事態であり、なんらかの改善が求められている。

また、おおよそ 200 名以下になったとはいうものの、授業規模がいまだかなり的人数になる場合が多く、単位の実質化や自主学習への配慮という点で依然として困難が伴っている。それでも、コメントペーパー、ミニレポート、ディスカッションペーパーの使用による双方向授業の工夫や、パワーポイント等の視聴覚教材の使用のほか、ワークブック形式の教科書、課題レポート、参考文献の紹介などの試みがなされ、基礎学力不足の学生に対しても、上記の学生からの各種提出物を参照することにより、一定程度の配慮がなされていることは評価できる。

授業成果については、多くの担当教員が肯定的回答をしており、学生授業評価の回答率の低さにより評価が困難という事例はあるものの、授業中の提出物等を通じた意見聴取により代替することによって、おおむね、教育の成果や効果が上がっていることが確認できていることは、評価できる。もちろん、学生授業評価の回収率の向上については改善されなければならない。

今後の課題：既に記した必要な改善事項のほかに、T A の採用率が申請時間を大きく下回っていることは、改善が求められる。また、専門基礎科目「論理学Ⅰ」「論理学Ⅱ」については、当初は授業内容が連続性をもっていたものが、現在では異なる科目であるにも拘わらず殆んど同じ内容にせざるを得ない状況にあり、しかも受講者の数がきわめて多く、改善が求められている。

## 様式 2 (続き)

### 項目・観点ごとの記述

#### 基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況)

各授業科目は「人間形成と思想」に関わる問題を多角的に教授するため適切に編成されており、教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっている。

#### 根拠資料

「人間形成と思想」教育部会の HP、および各授業科目のシラバス。

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況)

担当教員からの報告では、この質問への回答はすべて肯定になっており、各授業科目の内容は、教育の目的達成のための基礎となる研究成果を反映したものとなっている。

#### 根拠資料

シラバス、授業中に配布したプリント。

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

担当教員からの報告では、この質問への回答は、肯定が 16、否定が 6 であり、単位の実質化は必ずしも十分ではないが、進捗しつつある状況にある。

#### 根拠資料

課題と成績評価配分、参考文献を明示したシラバスや配布物、ワークブック形式の教科書、課題提出物。

5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況)

担当教員からの報告では、この質問への回答は、肯定が 18、否定が 4 であり、おおむね、それぞれの教育内容に応じた学習指導法の工夫がなされている。

#### 根拠資料

コメントペーパー、ミニレポート、ディスカッションペーパー、配布資料、パワーポイント、その他の視聴覚教材。

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

自主学習については、前々項に挙げたワークブック形式の教科書や課題提出物、あるいは参考文献の紹介により、また、基礎学力不足の学生に対しては、前項に挙げた各種の学生による授業中の提出物を参照することにより、一定程度の配慮がなされている。

根拠資料

ワークブック形式の教科書、課題提出物、コメントペーパー、ミニレポート、ディスカッションペーパー。

5-3-②： 成績評価基準に従って、成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

担当教員からの報告では、この質問への回答はすべて肯定になっており、成績評価と単位認定は適切に実施されている。

根拠資料

答案、出席簿、提出物。

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

担当教員からの報告では、この質問への回答は、肯定が16、否定が2、不明1、肯定なし不明1であり、おおむね、教育の成果や効果は上がっていると認められる。

根拠資料

学生授業評価、試験成績分布、提出物。

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

ほとんどの担当教員はシラバスにオフィスアワー、電子メールを明記しており、また教育部会のHPでも連絡先を明示しており、学習相談や助言が適切に行われうる状況にある。

根拠資料

シラバス、教育部会HP。